

再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業名 国道175号神出バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 近畿地方整備局
起終点 自：神戸市西区平野町常本 至：神戸市西区神出町小束野	延長 5.7km	
事業概要 国道175号は、兵庫県明石市から京都府舞鶴市に至る延長約118kmの主要な幹線道路であるほか、第二神明道路、山陽自動車道及び中国縦貫自動車道とを相互に連絡する重要な路線である。 神出バイパスは、その一部を構成する延長5.7kmの4車線道路である。		
S61年度事業化 S58年度都市計画決定 S61年度用地着手 H5年度工事着手		
全体事業費 約220億円 事業進捗率 50% 供用済延長 0.9km		
計画交通量 43,400台/日		
費用対効果分析結果 B/C (事業全体) 2.8 (残事業) 5.9	総費用 (残事業/事業全体) 104/249億円 (事業費：83/228億円) (維持管理費：21/21億円)	総便益 (残事業/事業全体) 616/702億円 (走行時間短縮便益：592/670億円) (走行費用減少便益：1/8億円) (交通事故減少便益：23/24億円)
感度分析の結果 交通量変動：B/C=6.5 (交通量+10%) B/C=5.3 (交通量-10%) 事業費変動：B/C=5.5 (事業費+10%) B/C=6.4 (事業費-10%)		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる） ・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる）他13項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 神出バイパスは、交通混雑の緩和、交通安全の確保、沿線地域の活性化等に重要な役割を果たすことが期待されており、神戸市、明石市をはじめとする17市6町の首長で構成される兵庫南東部国道連絡会（平成17年7月）や、兵庫県（平成17年7月）等から早期整備の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 沿線地域の大規模住宅開発の進展により、人口及び自動車保有台数が増加が著しく、田井地区における渋滞は、深刻化している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 公函整理や用地買収に時間を要したが、平成8～10年にかけて0.9kmを部分供用し、平成16年度末時点の用地買収は、約88%が完了している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地買収難航箇所について、平成16年3月に事業認定を受け、今後も積極的に事業を進め、平成20年代前半の部分供用を行うとともに、平成20年代後半の全線供用を目指す。		
施設の構造や工法の変更等 神出バイパス区間は、大部分が盛土構造となっていることから、公共工事建設発生土を積極的に活用していく。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図 		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。